

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400770		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり発寒 さつき館		
所在地	札幌市西区発寒15条1丁目2番8号		
自己評価作成日	平成30年2月25日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オープンして日が浅く、かつ冬期間のため積極的な地域交流はできていないが、雪が解けたら近所を散歩し先ずは挨拶から交流を始めていきたい。また、24名の入居者様がその人らしさを互いに認め合い職員は学びの姿勢を忘れずに寄り添い支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームみのり発寒」は、静かな住宅地に立地している開設1年目の2階建て3ユニットのグループホームである。1階に6名と9名の2ユニットがあり2階が9名の1ユニットになっている。建物内は広々とした清潔感のある明るい造りで、それぞれのユニットの床や壁、全居室も違う配色で個性的な室内になっている。事業所の理解につながるよう開設前に町内会向けの内覧会を実施するなど、積極的に地域との交流に取り組んでいる。初めての運営推進会議開催時には、会議を理解してもらえるように会議案内と資料を事前に送付することで、町内会役員や家族からも多くの意見や質問などが出され充実した会議が行われている。職員は日々理念を意識しながらそれぞれの利用者の残存能力を把握して、その人らしい生活が可能な限り継続できるように優しくり添い、一人ひとりを尊重した細やかな対応を行っている。ホーム長は、各職員の意見や提案に耳を傾けながら職員の資質向上を目指して熱心に取り組んでいる。今回の自己評価にも全職員の意見が反映されている。気分転換を兼ねて建物内を散歩したり利用者同士で交流するなど、3ユニットの特性を生かした家庭的なケアを行っている。新年度に向けて新たな地域交流も検討しており、開かれた事業所として今後の発展が楽しみな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さつき館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームオープン前に、全職員でホーム理念を構築した。主に、入居者主体の生活の支援、地域との交流、そして職員の自己研鑽である。その理念はユニット内に掲示し、月1回の会議時に唱和している。	開設時に「私たちは地域交流を通して、開かれた明るいホームを目指します」という地域密着型サービスを意識した文言を含む、3項目の事業所独自の理念を全職員で作成している。各職員は理念を十分理解して実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オープンして半年な事と冬期間の為、なかなか直接的な交流は行われていないが、今後は、散歩から少しずつ交流したいと考えている。	町内会向けの内覧会を実施し、事業所の理解につなげている。開設前から町内会長と連絡を密に取り、避難訓練にも参加を得ている。新年度からは地域行事に参加すると共に、近隣の保育園にも交流を働きかけていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記同様、まだ未実施。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	オープンしてから1度開催している。今後、出席者の意見を聞きながら内容の濃い会議にしていく予定。	地域包括支援センター職員や町内会長、家族4名が参加して1回目の会議を開催し、避難訓練や災害時の対応について意見や質問が出されている。会議を理解してもらえるように会議案内と資料を事前に送り、議事録も全家族に送付している。	勉強会なども予定しているので、テーマを記載した会議案内を送付して、参加できない家族の意見なども会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	更新申請や区分変更等を通して、顔の見える関係作りを模索している。	ホーム長は、各種手続きや相談などで区役所を訪問して日頃から協力関係が築けるように取り組んでいる。地域包括支援センター職員から研修資料や講話情報などをもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束および虐待防止のマニュアルがあり、職員はいつでも手に取り目を通すことができる。	「身体拘束虐待防止マニュアル」を整備している。「禁止の対象となる具体的な行為」11項目を含む資料を作成して全職員で確認している。具体的な事例に沿って、危険防止のための対応も拘束につながっていないか全職員で検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様。ユニットでは風通しの良いユニット作りを目指している最中。		

グループホーム みのり発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さつき館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設からまだ間もないため、全職員が学ぶ機会はないが、今後は計画を立てて行っていく計画がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容は、口答と文書で説明している。また不明な点があった場合は、職員が24時間滞在しているので改めて説明することや上司のつなぐことができる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の場合は、面会時等にその家族の想いを伺い、対応が必要な場合は速やかに改善するよう心がけている。また利用者の場合は、居室担当者がその想いを受け止めケア等に活かしている。	面会時や電話で状態を伝えながら意見や要望を聞き取り、連絡ノートに記載したり口頭で伝えている。今後は、家族の些細な意見や職員の気づきを個別に記録に残していきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、ユニット会議を開催し職員の意見を聞き、具体的な課題や問題を解決している。	開設後に全体会議2回とユニット会議を毎月開催している。ユニット会議で入居者状況について意見交換したり、業務の流れについて検討して職員の提案などを反映させている。ホーム長は、新年度からは年2回の個人面談を予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	採用面接の際に、勤務状況や給与、労働時間については各々、役職者と個別に話し合いあって不明点がないように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	応対マナー研修や認知症に関する社内勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設からまだ間もない為、全員ではないが一部の職員は同業者の勉強会や研修等に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さつき館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当が率先して信頼関係を構築し、本人の安心につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当者や管理者が主に、家族の来訪時に声かけし不安な気持ちの払拭に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画作成時に、本人及び家族の意向を把握し、今一必要なサービスは何かを検討し実践につながるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	例えば、テーブル・食器拭き、食器洗い、モップかけ等、職員と一緒に活動できる日が毎日である。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されている大半の家族は協力的で、職員と協働し共に支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話等、制限がない入居者に対しては自由に接していただいている。	同級生や同じ町内に住んでいた方が訪ねて来たり、電話で友人と話しをしている利用者もいる。電話で話すことで、気分転換につながることもある。家族と一緒に自宅に帰ったり、お寺に出かけた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的には、自由に入居者同士の関わり方を尊重している。時に、職員が間に入ってマッチングをし入居者同士の関係作りに努めている。		

グループホーム みのり発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さつき館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居され1週間も経たずに亡くなった方の配偶者が同じユニットにおられ、家族及び配偶者のグリーフケアを行っていた。また今後、サービスが終了した場合、家族等の希望があればフォローしていく体制がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の想いを尊重し、本人の自由に暮らしていただいているが、リスク予防の視点も同様に職員はもっている。	利用開始時にセンター方式シートで情報を収集している。会話や表情、仕草などから思いや意向を把握している。今後もセンター方式シート(D1-1・B-3)を定期的に更新していきたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族等へは、センター方式を渡し記入してもらいケアに活かしている。また、本人から聞き取れた情報等は全職員、申し送りノート等を活用し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人のケース記録に記入し把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者が率先し、モニタリングや短期及び長期目標評価やケアプラン原案を作成し計画作成者と協働で介護計画を作成し、月1度のミーティングで再度、出席職員と討議し作成している。	利用者担当職員者を中心に全員で評価を行い、3か月毎に計画作成担当者が介護計画を作成している。ユニット毎に書類の記入方法などが異なる部分もあるので、統一する意向である。介護計画の見直し書類の整備が不十分なものもある。	介護計画の見直しの一連の流れが分かりやすいように、全員の書類を整備するよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況はケース記録に記入し、特記事項や通達事項は、朝の申し送りや連絡ノート等を活用し伝達・周知し各居室担当が把握するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で浮かんできたニーズは、職員で足りることなら率先し提供している。また、家族のニーズも面会時等に汲み取り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オープンして間もない事と冬期間のため、地域資源の活用まではいたっておらず今後の課題である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居により、今までのかかりつけ医との関係が途切れなうよう、契約時に家族へ口答で説明している。また、かかりつけ医のいない等の場合は、隔週で訪問診療を提供している。	かかりつけ医を受診する場合は家族支援を基本としているが、専門医など受診先により職員も同行して健康状態を伝えている。受診結果を連絡ノートに記入しているユニットもあるので、医療連携ノートで統一する予定である。	



グループホーム みのり発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さつき館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員への報告書が整備されており、気づきを記入している。また看護師が訪問時には、その報告書を元に口答により具体的に伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各利用者の担当者や管理者等から、医療機関へ速やかに情報を提供したり、報告・連絡・相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の心身の変化を受け止めチームとしてどのようなケアが必要か考慮し、カンファレンス等を通して全職員共有事項としてケアプランに反映してケアの実施をしている。	「重度化した場合における(看取り)指針」に沿って、看取り介護の具体的な支援内容などについて説明している。体調変化に応じて主治医、家族、事業所で方針を話し合い、希望に応じて看取りも可能であることを伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	平成29年12月に避難訓練の一環で、AEDの使用方法を消防署の方からレクチャーを受けている。また、事故発生・対応マニュアルを整備し職員はいつでも手に取る事ができる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	上記の通り避難訓練を実施しており、その際は、町内会長を始め町内住民にも参加してもらっている。	消防署の協力の下、地域住民も参加して日中の火災を想定した避難訓練を12月に実施し、3月に夜間を想定した自主訓練を予定している。避難訓練時に救急救命講習も実施している。法人マニュアルに沿って独自のマニュアル作成を検討している。	マニュアル作成時に、各利用者の状況に応じたケア別の適切な対応なども話し合うよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム理念にも掲げられ、日々の業務の中で実践している。また、何でも言い合えるようなチーム作りを行っている。	開設前に接遇マナーについて職員研修を行い、理解を深めている。不適切な対応があればその都度ホーム長が注意し、分かりやすく指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、朝の申し送り等でキャッチした利用者の想いを伝達しあい、すぐに実践できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば便宜上、朝食の時間を共通して設けているが、その時間に間に合わなくても、その人のペースを重んじ見守りを強化している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後等に、本人持ちの化粧水や乳液等を提供したり、その時にどんなものが着たいのか等を確認できる利用者には何って支援している。		

グループホーム みのり発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さつき館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器拭き、食器洗い等を一緒に楽しみ見ながら毎日行っている。	誕生会は出前寿司やケーキを選んだり、外食レクでは好みのメニューで食事を楽しんでいる。食事作りでは食材を工夫してメニューに変化をつけたり、手作りおやつに取り組んでいるユニットもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量等は毎日記録にとり、場合に応じて主治医や訪問看護師へ報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声かけや一部介助のもと口腔ケアをおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、トイレの間隔が長い方には声かけを行っている。また、紙オムツを利用されている方でも日中は、なるべくトイレで排泄をしていただくよう職員2人介助で支援している。	職員は介護記録から排泄パターンを把握してほぼ全員がトイレで排泄を継続している。利用者が自分のペースでトイレで排泄ができるように見守り、自立している気持ちを大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後に、牛乳や水分を提供したり、ケアプランに基づいてホール内や階段を利用した運動を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3日で入浴できるよう支援している。また同姓介助を行っている。	入浴習慣や生活リズムに配慮し、入浴を支援している。一人ずつお湯を交換して好きな入浴剤を選び、職員との会話が楽しみとなり気分転換ができるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	例えば夜間、活動的に行動される方の入眠の場所は、ベッドに囚われず、ホールソファを利用したり、その時々状況に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居室担当が責任をもって薬のセットを行い、内容を熟知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式等から読み取った情報や本人から聞き取った情報を元に、一人ひとりにあったユニットでの役割を提供している。		

グループホーム みのり発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さつき館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の職員の勤務人数や天候等を見ながら、近隣の散歩やスーパー、コンビニ等へ買い物に出かけたりすることがある。	天候を見て、車椅子利用者も一緒に近隣を散歩している。外食レクでは寿司店へ出かけたり、外出希望には個別支援で対応している。テラスでの外気浴や3ユニット間の行き来が自由に行われ、外出できない時には効果的である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況により少額のお金を所持されたり、高額の場合は、ホーム長が預かり必要時に本人へ渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人が希望された時に、職員や利用者自ら電話をかけられる支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえるように飾り付けを変えたり装飾を施している。また、食事の際はTVを消し、落ち着いた雰囲気ですらを楽しむように静かめの音楽をかけている。	共用空間は広く、トイレや洗面台も混雑なく自分のペースで利用できるような造りになっている。広いリビングには大きな窓から採光が充分あり、外の景色も楽しめる。テラスでは外気浴ができ、利用者は大きなソファや椅子で寛ぎ居心地よい場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前のソファでは、好きな場所に好きなように座っていただき談笑を楽しむ場所を確保している。食卓テーブルは、5つのブロックに分けることができ、今後一人でも過ごされたい方がいた場合、臨機応変に対応することが出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの入居者は、以前から自宅で使用されていた家具等を持ち込まれ過ごしやすい配置にされている。	使い慣れたタンスや小物、家族の写真を飾り居心地よい部屋作りを支援している。洋服を掛けたり仏壇を置くなど、今までの習慣を継続して安心できるように利用者や家族と相談している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室のドアに、張り紙をして分かりやすいよう掲示している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400770		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり発寒 つつじ館		
所在地	札幌市西区発寒15条1丁目2番8号		
自己評価作成日	平成30年2月25日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安全と安心への支援として入居者様が不安や孤独感を感じたときにスタッフをさがすことができる安全な日常生活の確保と個々の人のライフスタイルの反映、家庭的な環境づくり、居室におけるプライバシーの確保プラス入居者様のふれあいのきっかけになる、小道具を用意する。季節の行事や、季節感に関わるもの、昔の生活を思い出させるもの等、入居者様同士の関係づくりに配慮し、また地域へ出て行き施設以外の人とふれあえる機会づくりをスタッフ一同とつくりあげていきたいです。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念である、利用者様を尊い存在として大切に思う心を持ってサービスに携わることをスタッフ一同共有し、管理者指導の下、ケアにおいての実践に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の方々との交流や、近隣の住人が来訪されたりしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所開設にあたり、地域の方々に向けた説明会等を行い、その中で理解を深めていただけるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行っています。 会議の場で報告をしご家族様からの意見を聞いています。要望があった場合、現場に反映するよう努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	まだ、協力関係の構築にはいたっておりませんが、今後は積極的に関係の構築に努めてまいります。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの手引きを目につくところに掲示し、職員全員が正しく理解出来るよう努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での研修はまだ行っていませんが、各自が個人的に研修に参加し虐待についての理解を深め、防止に努めています。		

グループホーム みのり発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業者が開設して日が浅く、学ぶ機会がないのが現状ですが、今後は学ぶ機会を持ちそれらを活用出来るようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に必ず家族様との時間をもち、説明しています。家族様からの疑問などにも丁寧に答えています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回運営推進会を行い、意見交換できるようにしています。運営推進会議以外でも面会に来られた家族様からの意見も取り入れるようにしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回会議を行い、職員が意見を言える機会を設けています。また、業務や入居者に対して気づいたことを書き込めるノートも活用しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	書く職員の得手、不得手などをすべて把握しきれていないのが現状ですが、向上心を持って働けるように少しずつ職場の環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会はまだ1度しか設けられていません。今後、研修等に参加していけるよう努めていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設して日が短いため、同業者と勉強会等の参加は行えていません。今後、ネットワーク作りを行っていきたいです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人との面談を行い、本人または家族様から色々とお話を聞き、信頼関係を築けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様からのお話を聞き、要望・不安等を解消できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人・ご家族様と話す機会を設け、何が必要かを見極め、必要があれば他のサービスも使用できることを伝えています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的にならず、本人が行えることは行っていただき、共に暮らしをする者同士という関係を築いている途中です。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族様が一緒になり、ご本人様を支えていけるように意見等を言いやすい関係性を築けるように努力しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけではなく、ご友人などが気軽に面会に来られる環境作りをしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立してしまわないようにしていますが、動きが激しく他利用者が不穏になってしまう際は、一時的に離れてもらったりしています。		

グループホーム みのり発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族の経過について支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに合ったレクやお手伝い生活のリズムに合わせた。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報・日常の会話・前事業所・病院の情報を提供していただき、活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のケース会議・職員間の情報共有を基に把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当を決め、本人やご家族とのスムーズな関係を築けるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を基に、毎日のケアプランの実践の記入をしており、活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	開設して日も浅いため、まだ実施されていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用にはまだ至っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医による往診対応や、ご本人・ご家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。		



グループホーム みのり発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護師による体調確認があり、その際に日々の情報や気になることを相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、入院先の医療機関との情報交換等を密に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について入居契約の際にご本人・ご家族に十分な説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを備えている。また、応急手当や初期対応のマニュアルも用意し、実践に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練を実施したり、ハザードマップや近隣の避難所マップを備えている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思いを否定せず、時には見守ったりさりげない処理をし、手助けを吸うなどの対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決め付けた声かけをせず、ご本人が答えられるような働きかけ、声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を考慮し、食事の時間や入浴の順番などを臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族からの情報や提供されたものを活用し、支援している。(ヘアバンドの使用など)		

グループホーム みのり発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ館)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片付け等を好んで行う入居者様と一緒にしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に記入し、職員全員が把握出来るよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後には必ず口腔ケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を利用しながら、個人の排泄感覚を掴めるよう支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動を促している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の気分や体調を考慮しながら入浴していただいている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせてられるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報の確認と薬の効能・副作用等の把握に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話や遊びを通して気分転換を心がけている。			

グループホーム みのり発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節柄、思う様に外出出来ず、今後の課題と言える。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施していません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や年間の行事ごとが分かるよう工夫している。清潔感を心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人、お気に入りの場を大切にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険の無いような居室の配置をしながら、安らげる空間を作り上げている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400770		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり発寒 あじさい館		
所在地	札幌市西区発寒15条1丁目2番8号		
自己評価作成日	平成30年2月25日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安全と安心への支援として入居者様が不安や孤独感を感じたときにスタッフをさがすことができる安全な日常生活の確保と個々の人のライフスタイルの反映、家庭的な環境づくり、居室におけるプライバシーの確保プラス入居者様のふれあいのきっかけになる、小道具を用意する。季節の行事や、季節感に関わるもの、昔の生活を思い出させるもの等、入居者様同士の関係づくりに配慮し、また地域へ出て行き施設以外の人とふれあえる機会づくりをスタッフ一同とつくりあげていきたいです。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あじさい館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に1度もしくは折にふれながらミーティングを行い都度確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	時折りの地域の方の協力もあり行事等の声かけ参加を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が気軽に立ち寄れる環境整備している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常ケア場面でご本人やご家族様意思決定判断の根拠を踏まえ理解を深めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	私たちが地域イベントに参加できる様計画している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命又は身体を保護する為緊急をやむ得ない場合を除き、職員間でケア・言葉づかい等充分理解し、ミーティング時には確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳の保持を掲げ、職員同士で適切なサービス提供ができる様、常に話し合いの場を持っている。		



グループホーム みのり発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あじさい館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「ご自分で出来ることはなるべくご自分でしていただきましょう」と職員同士の声かけはしている。成年後見制度について学ぶ機会ははまだ作っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の意見を聞いたり、態度表情などから必要なこと、希望を推測している。ご家族の面会時には職員と話す機会を持ち、ケアプランに利用者や家族の意見・希望を反映させている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	避難訓練の実施状況について家族からの質問があり、ホーム長が対応しました。クレームについても接遇・マナーを学ぶ機会をもち、誠実に対応を心がけています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社の方針はオープンで、スタッフが意見を述べる場も社内ネット通信など設けられています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室の用意、車通勤者の駐車場確保(冬の雪かきを業者に頼む)など、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2月現在ユニット内で研修中のスタッフがいる。アルツハイマー型認知症による介護拒否の対応の仕方など、スタッフ同士お互いに「こうしてみたらうまくいった」等情報を共有し、よりよい介護ができるよう働きながらトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	スタッフは外部に研修会に参加する機会を与えられている。まだこの半年でユニット内で2人のスタッフのみだったが、今後も継続される予定。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あじさい館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の言動から意思を確認し、安心していただけるように対応を工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人や家族様の声などに基づき、プランを作成後家族様に報告して了承を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族様の意見や状況等確認し相談しながら必要な支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に家事の手伝いやレク等を行い、それを通じて共同生活における関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子を家族様に伝えています。また、居室の環境整備についてご家族様と相談している、		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や友人との面会、年賀状、電話をかけるなど大切な人間関係が継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の利用者と共に楽しく過ごせるようなレクやお手伝い等にお誘いしている。利用者同士のトラブルにはすぐに職員が介入している。		

グループホーム みのり発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あじさい館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した利用者はまだおらず、今後実施予定。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の好みにできるだけ合わせて、入浴時間を調整したり、食事の味付けを変える等している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、本人とのお話やセンター方式の利用により情報を集め、スタッフも把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り、日々バイタル測定し、その日の体調や個々のペースに合わせて過ごしてもらっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員会議を行い、ケアプランや改善策をその都度検討、ご家族様とも面会時や電話で相談している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録の他にも連絡ノートなどを作り、個々の情報等を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の入院などで必要な受診ができない場合は、スタッフ同行で病院受診している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	秋に近くの保育園児でにぎわっている公園まで散歩に行きました。今後町内会のゴミ拾いに参加予定。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域にかかりつけ医がある方は続けて利用され、特にない方は協力医療機関をかかりつけ医として2週間に1回の往診を受けている。		

グループホーム みのり発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あじさい館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員と訪問看護のお互いの情報を提供をしている。週1回訪問ナースとはこの数ヶ月でスタッフ、入居者 顔なじみであり、いろんなことを相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療のドクターやナースとの関係づくりはしている。入居者の日常の様子についても、書面と口頭でお伝えしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	このユニットでのみとはまだない。この事業所のできるできないことの説明は、入居時に書面と口頭で行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在新しいマニュアル作成中ですが応急手当や初期対応の訓練は過去の事例をもとに行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を1度実施している。運営推進会議などを通じて、地域の皆様に協力もお願いしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マナー・接遇の社内講習を全職員が受けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクや体操の参加の有無、配席、飲み物の選択、一日の過ごし方等、できるだけご自分で決めて頂ける機会が持てるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝眠くて起きられない時は無理に起こさない。入浴も午後ではなく午前がよい方には、午前中にも入浴できるよう、可能な範囲で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度訪問理美容で対応その他個人使用の化粧品も利用していただく、お気に入りの服を選んで着れるよう出来るだけお手伝いする。		

グループホーム みのり発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あじさい館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お膳並べや食事の盛り付け食器拭き等、入居者様と職員と一緒にできる範囲で行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表を作成し分量がわかるよう努めている。食事形態等の、個々の状態に合わせ、都度対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に合った口腔ケアを実施。ほぼ自立されているが、見守り、付き添いし足りない部分は介助しています。又、定期的に義歯洗浄行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄自立されている方が多いが、一人一人の排泄パターンを把握し、排泄チェック表を活用しながら時間誘導等行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、個々の排便状況を把握しています。必要に応じて下剤や、水分のすすめをしています。また体操に誘い身体を動かす機会を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の身体状況に合わせて、週2～入浴を提供。希望があれば、柔軟に対応している。状況により、シャワー浴・足浴・清拭を行い、清潔保持している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を理解し、体調や状況により、自由に休憩できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報共有できるよう、薬情ファイルを作り、処方内容の変更があった際にはいつでも目を通せるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意なことを把握し、家事作業の手伝いや裁縫等、役割を持って生活できるよう支援している。		



グループホーム みのり発寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あじさい館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮し、職員と買い物や散歩、外出レク等行っている。また家族様と受診へ行かれた際に外食をされ帰って来られる方もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本所持していただいております、外出行事等、事前にご家族様と話し合い、その都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々で希望があれば、電話をかけて頂いている。本人の意思を傾聴し対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節に合った飾りを一緒に作成し、飾り付けを行っています。明るく家庭的な雰囲気作りを心がけ不快や、混乱をまねかないように配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士で食席やソファーに座わり、テレビを見たり、談話をしたりと思い思いに過ごせる場がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様にご協力頂き、入居時には使い慣れた家具や日用品を持参して頂き、居心地の良い場であるよう環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室やトイレ等、目印となるものを付け工夫している。狭い空間もあるが危険のないように、不要な物は取り除き安全に生活できるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームみのり発寒

作成日：平成 30年 3月 22日

市町村受理日：平成 30年 3月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	3ユニットでアセスメントやケアプランの見直しの流れ・使用する書式に統一がない。	3ユニットが同一の流れに沿って入居者様一人一人に最適なサービスが提供できるよう書類を整理する。	アセスメント・センター方式シートの活用を定期的に見直しながら入居者様の現状に見合った介護計画を作成する。3ユニットの計画作成者が情報交換できる機会を設け統一した書式にする。	3ヵ月
2	35	法人における災害マニュアルはあるが、GH発寒の地域・土地柄を考慮したマニュアルが作成できていない。	災害(水害)・地震発生時の訓練が実施できるようマニュアルを作成する。	避難場所に指定されている場所までの移動手段を含め安全に避難できるよう実際に徒歩で確認をする。施設内で一時避難に有効な場所を検討。避難準備品の確保をする(毛布・食料品・衛生用品)	6ヵ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。